

生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語

中級日本語読解教程

鎌田修 梶本総子 富山佳子 宮谷敦美 山本真知子 著

○ 大连理工大学出

华北水利水电学院图书馆



209295458

H369.4
L389

中级日本语读解教程

生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語

江苏工业学院图书馆
藏书章



鎌田修 梶本総子 富山佳子 宮谷敦美 山本真知子 著

○ 大连理工大学出版社

929545

Authentic Japanese: Progressing from Intermediate to Advanced
by Osamu Kamada, Fusako Sugimoto, Yoshiko Tomiyama, Atsumi Miyatani and Machiko Yamamoto

Copyright © 1998 by Osamu Kamada, Fusako Sugimoto, Yoshiko Tomiyama,
Atsumi Miyatani and Machiko Yamamoto

Original Japanese edition published by The Japan Times, Ltd.

Chinese translation rights arranged with The Japan Times, Ltd.

through Japan Foreign-Rights Centre

ISBN 4-7890-0918-1

© 大连理工大学出版社 2003

本书由株式会社ジャパンタイムズ通过株式会社日本著作権輸出センター正式授权给大连理工大学出版社出版发行。

著作权合同登记号:06-2002年第071号

版权所有·侵权必究

图书在版编目(CIP)数据

中级日语读解教程 / 鎌田修等著. — 大连: 大连理工大学出版社, 2003.7

书名原文: 生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語

ISBN 7-5611-2070-2

I. 中… II. 鎌… III. 日语—教材 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2002)第 038951 号

出版发行: 大连理工大学出版社

(地址: 大连市凌水河 邮编: 116024)

印刷: 大连海事大学印刷厂

幅面尺寸: 185mm × 260mm

印 张: 18.25

字 数: 410 千字

印 数: 1 ~ 6 000

出版时间: 2003 年 7 月第 1 版

印刷时间: 2003 年 7 月第 1 次印刷

责任编辑: 宋锦绣

封面设计: 王福刚

责任校对: 赵 娜

定 价: 24.80 元(另配有磁带 1 盒)

电 话: 0411-4708842

传 真: 0411-4701466

邮 购: 0411-4707961

E-mail: dutp@mail.dlptt.ln.cn

URL: <http://www.dutp.cn>

この本をお使いになる方へ

1 この教科書の対象レベルと目標

本書は中級レベルの日本語学習者を対象とし、その能力を上級レベルに引き上げることを目標としている。ここでは「中級」「上級」の能力というものを次のように考える。

「中級」……パターン化した日常の言語活動を、文レベルの発話で表現、理解できるが、談話レベルの理解や表現はできず、パターンからはずれた場面での複雑なコミュニケーションには困難をきたす。

「上級」……パターンからはずれた場面での複雑なコミュニケーションができる。つまり、予期していない場面に遭遇した結果、必要となる「説明・理由づけ」「記述」「報告」など、

談話レベルの言語活動を理解、表現できる。

例えば、ユニット1の「ひと味違う自己紹介」の場合、日常的にパターン化している「自己紹介」をこなすことは中級レベルで問題なくできるであろうが、そうではない「ひと味違う」自己紹介となると、しっかりした談話面での能力が要求されることになる。それをここでは「上級」能力と考えるわけである。この教科書はそのような設定のもとに、「中級」の能力を「上級」に引き上げることを目的に、「読み教材」を中心に総合的な日本語能力が養えるように作成したものである。

2 この教科書の特徴

この教科書は日本語の能力を「中級」から「上級」へと引き上げることを目的にしているが、この段階に必要な教材の条件とは、学習者が関心を持てる題材が、学習者のレベルに合い、かつ、生きている自然な日本語で書かれていることであろう。それゆえ、本書では、

- (1)中級レベルの日本語学習者が日本にいれば、おそらく出くわすであろう言語生活から10のテーマを各ユニットに用意し、
- (2)書き下ろしではなく、すべて、日本人向けに書かれた生のエッセイや説明文、記事、アンケート調査から材料を選んだ。

例えば、ユニット2の「間取りの本当の意味」は、自分自身で自分に合ったアパートを日本で探そうとすれば、どのような問題に出くわし、それをどのように解消しなければならないか、そして、そのためには、どのような日本語力が必要となるか、というテーマの設定である。そ

のような観点に立てば、当然そこに必要となる材料は、日本人向けに書かれた生のものでなければならない。

「中級」レベルで処理できる単純なものではなく、一段上へとヒネリの入った「上級」能力を必要とするテーマ設定。日本語によるインタクションをより多く必要とするテーマの設定。そして、そこに、単に「自然な生の材料」というのではなく、日本語学習者のレベルに合った、日本語学習者が関心を抱く、生きた日本語の材料の使用。写真、イラスト、グラフ、マンガなどいわゆる周辺的な言語材料と言われているものを多く導入したのも、決してそれらが「周辺の」なものではなく、日本人もそれらを総合的に利用してテキストの理解を図るのであり、その点は日本語学習者も同じであるという認識による。このような「生きた日本語」へのこだわりがこの教科書全体の姿勢である。

3 この教科書で行う課題

各セクションでの学習作業は、大きく分けて「読む前に」「読んでみよう」「読んだあと」の3つからなる。それはなぜかという、本書が常に言語場面、つまり、コンテキストを意識し、言語的調整をしていない自然な言語材料の提供を最も重視していること、そして、また、「中級」能力を「上級」能力へと伸ばすだけではなく、さらにその上の能力への橋渡しも提供したいという考えからである。

言葉が、それが使用される言語場面^{コンテキスト}と切り離されては存在しないということは、言うまでもないことである。しかし、母語話者にとってきわめて身近でありふれた言語場面であればある

ほど、非母語話者には得体の知れないものであったりする。この教科書では、新しい言語場面に入る前の準備として、「読む前に」という課題をまず設け、そこで一種の「準備体操」をして、それから「読んでみよう」という「主作業」に移るという構成を取った。そして、この主作業が終われば、そのテーマに関わる学習の定着と拡大を目指した「読んだあとで」という作業に移り、そのユニットを終了させる。つまり、「前作業」「主作業」「後作業」という3つのステップを踏むことで、一つの大きな言語場面を通り抜け、また、それと関連した言語場面への足がかりもつかむ、という考えである。

4 各ユニットの構成と使い方

本書に収められている各ユニットは次のような構成になっている。

- (1) 「読む前に」
- (2) 「読んでみよう」
→ 「内容を確認しよう」「意見を述べよう」
- (3) 「読んだあとで」
- (4) 「重要表現」「文法・語彙練習」

巻末：文法・語彙練習解答、重要表現さくいん、単語さくいん

別冊：単語リスト、重要表現解説

以下に各セクションの学習課題の意図を示し、合わせておおよその指導法を紹介したい。学習者のニーズ等に応じてユニットの提出順序を変えることは全く問題がないが、どのユニットであれ、次の順序で指導していくことが望ましい。

読む前に

新しいユニットに取りかかる前のウォームアップ。新しい言語環境に慣れ親しむため、その周辺的なものの理解を促すアドバンス・オーガ

ナイザーと呼ばれる機能を果たす。また、これから学習するテーマについて考えてみようという気持ちを起こさせる動機付けの役割も持つ。

(例) ユニット2「間取りの本当の意味」の場合：

不動産の広告などで使われる間取り図を見て、それが何であるのか考える。建物のタイプや間取りの名称（1K、2DKなど）などの日本的な情報を与えたり、学習者の出身国と日本との住宅状況の違いを考えるなどして、主作業に入る前のウォームアップを十分に行う。「間取り」というテーマに対する問題意識を向上させることも大切なことである。

授業では、学生同士で話し合う会話・討論形式で行うことが望まれる。ここでの作業は「読んでみよう」のテキストで扱われている内容、語彙、表現と、直接あるいは間接的に関係があるので、それに入るまでの準備作業というわけである。60分程度で終了するであろう。

読んでみよう

各ユニットの主作業である。まず、学生にざっと読ませ、大意を取る練習をし、それから、細部の理解に入るといいであろう。その際、本文末にある「内容を確認しよう」の質問事項を最初に読んでおき、それに答えるような形を取ると学習がはかどる。読解作業を翻訳的な文法学習にするのは望ましくないので、できるだけ「内容理解」ということを第一義に考え、それが終了してから、「読んだあとで」の後に付いている「重要表現」「文法・語彙練習」などを行うことを勧めたい。しかし、「内容確認」を終え、詳しい読解作業を行いながら、「重要表現」と「文法・語彙練習」を行うのも、決して悪くはない。

「重要表現」と「文法・語彙練習」はともに、それぞれのユニットに関連したテーマのもとに、表現力、文法・語彙力をさらに伸ばしていくことを目的に作ってある。重要表現は、「読んでみよう」のテキストを中心に、数にして12前後を取り上げ、それぞれに3つの例文と3つの練習問題を付けた。「文法・語彙練習」には、それまで学習した事柄に関係のある課題を10ほど選び、それぞれに5～10程度の練習問題を設けた。できる限りバラエティーがあり、また飽きの来ない、それでいてしっかり力がつくような問題作りを心がけたつもりである。

ユニットによる分量のばらつきがあり、また、「重要表現」「文法・語彙練習」のどれくらいを宿題にするかによって必要時間は異なるが、1コマ90分授業で4コマほどが目安になるだろう。なお、「読んでみよう」のテキストはすべて生のものであり、表記に関してもそのまま掲載しているが、もともとの形とサイズを本書のフォーマットに変えて提出したことだけは断っておく。

読んだあとで

主作業である「読んでみよう」で学習したことを応用、そして、発展させる学習作業。ユニットによって課題は異なるが、クラスでの話し

合い、それを書いてまとめる、あるいは教室の外に出て他の人達の意見調査を行うなど、プロジェクトワーク的広がりのある作業。教師が誘導をするというより、学生に主導権を与えて授業を進めていくことが望まれる。90分程度をめどとする。ここでのテキストは「読んでみよう」より、はるかに編集作業を落とし、できるだけ元のままの状態で提示した。

以上がおおよそその授業の進め方である。一つのユニットにどのくらい時間をかけるか、あるいはかけられるか、ということは教育機関によって異なるので、一般的なことは言いにくいだが、2週間くらいをリズムに進んでいくのがいいテンポなのではないかと思う。そして、各ユニット、あるいは2つのユニット終了後ぐらいをめどにテストを行うといいであろう。

別冊について

別冊には、「単語リスト」と「重要表現解説」を収録した。

「単語リスト」は、難しいと思われる言葉や各ユニットの内容に関連した重要と思われる語彙などをリストアップしたものだが、それらには何語の訳も施していない。それは、このレベルの学習者の場合、学習者自身でそれぞれの母語やあるいは日本語による説明を求める方が効果的だと判断したからである。余白に各自で意味を書き込むようにさせるとよい。語彙は多ければ多いに越したことはなく、定期的に（例えば、各ユニットに4回程度）語彙テストをすべきであろう。

また、「重要表現解説」には、各ユニットの「重要表現」で取り上げたすべての事項に対して、最低限の文法説明を施した。指導上の参考にしていきたい。

各ユニットの流れ

● **読む前に** (60分) ……「読んでみよう」に関連した材料を使ったウォームアップ作業。本文に入る前の動機づけ。

● **読んでみよう** (90分×4コマ)

……本文をざっと読み、内容を理解する

■ 内容を確認しよう ……この質問事項にまず目を通して
おくと効果的。

■ 意見を述べよう ……詳しい読解作業を終えてからでも
よい。

……詳しい読解作業

……………読解表現……………

……………読解語彙……………

● **読んだあとで** (90分) ……ディスカッション、レポート、教室外活動などの発展学習

致读者

1 本教材适用的读者及编写目的

本书将中级日语水平的读者作为对象，把引导其跨入高级能力水平作为目标。在此将“中级”“高级”做如下划分：

“中级”……具有进行日常会话和简单句子的表达理解能力，但不能流畅沟通或脱离固定模式后进行自如交流。沟通时存在障碍。

“高级”……脱离固定模式也能进行流畅的沟通。换句话说，在毫无思想准备的情况下，仍可进行自由沟通、说明、解

释、叙述、汇报等。

例如，在第一课的“形形色色的自我介绍”中，掌握模式化的自我介绍，在具备中级水平后便已毫无问题，但若为“形形色色”的自我介绍，则需要扎实的交流谈话水平，这在本书中被划分为高级水平。本教材就是在以此为前提的基础上，来完成引导从中级到高级的跨越，并以“读本”作为主要形式，进而培养综合日语能力为目标进行编写的。

2 本教材特点

本教材在以引导完成从中级向高级跨越的同时，充分考虑其他必要条件，选择学习者关心的话题，完全相应地针对学习者的水平，因此，自然生动的日常用语在该书中随处可见：

(1) 如果中级日语学习者身处日本，将很可能巧遇到的10处生活题材被用做各单元主题。

(2) 并非刻意编写，全部选取自以日本人为读者的真实的评论、说明文、报道、调查。

例如：第二课中要找到自己所中意的住所，会遇到什么问题？如何解决？就

此，需要何种日语水平？据此设定主题。站在这样的观察角度上，来选取必备的素材，对日本人来讲，也是很常见的。

不同于中级的单纯处理问题，从寻找跨入更高层能力水平的突破口来选定主题。同时不仅是单纯地“自然生动”与日语学习者的水平相吻合，和全部采用学习者关心的素材。另外还大量引入经常被误认为累赘的照片、插图、图表、漫画、文字等补充材料，但在此决不是累赘，这也是日本人常采用的多方位理解手段，在这方面日语学习者也将会有共识。这种“生动日语”形式构成了全书的主要形态。

3 本教材的话题

每课的学习大体分为“阅读前”、“阅读”、“阅读后”三部分。其主要原因在于本书在语言场合即靠通过联系上下文并提供非刻意化的自然的语言材料上极为重视。并且，不仅是从“中级”向“高级”拓展，还为能力的提高发挥起到了过渡作用。

语言自然离不开语言环境。但是，对母语者而言再贴切平常不过的事，对非母

语者来说却并不一定十分熟悉。本教材中，为即将进入新的语言话题的准备活动，设置了“阅读前”，以其作为“热身运动”，让“阅读”成为压轴戏，“好戏”之后，为了对其进行巩固和拓展，接着还安排了“阅读后”来巩固整个单元的知识。换言之，通过这三步来使读者更透彻体会到一个宽阔的语言环境，从而进行触类旁通。

4 每课的构成及用法

本书收录各课结构如下：

(1) “阅读前”

(2) “阅读”

→ “内容确认” “意见阐述”

(3) “阅读后”

(4) “重要表达” “语法、词汇练习”

后附：语法·词汇练习答案·重要表达·索引、单词索引

附本：单词表、重要表达讲解

以下对各个单元的讲授提供参考，虽可按学生需要做出顺序变更，但在各单元学习中以实行如下顺序为宜。

阅 读 前

为进入新的单元提供热身。由于起到

能使学生更快习惯、熟悉新的语言环境的作用，将其作为引路人，并起到使学生对该单元话题产生兴趣进而引发思考的作用。

(例) 第二课「間取りの本来意思」

从看到房地产广告中的房间结构，会联想什么？从建筑的类型和房屋结构的名称（1K、2DK）等日本式的信息，而引发学生将其与本国住宅状况进行对比。作为进入正戏时的充分热身。从「間取り」来进行问题的展开也是十分重要的环节。

在授课时，最好有学生间的交流讨论，并尽可能直接或间接涉及“阅读”中的内容、词汇、表达，从而完成在这层程度上的准备活动。用时60分钟左右。

阅 读

各单元的关键部分。首先,要学生们通读一遍,做提取大意的练习,接下来便进入细节的理解分析。此时可针对文章后的“内容确认”的问题1,来通读全篇去寻找答案进行学习。由于不推崇翻译式的语法学习,请尽可能将理解内容放在第一位,此过程结束后,在此建议进行“阅读后”中的“重要表达”和“语法·词汇”练习,也将不失为一种好方法。“重要表达”和“语法·词汇练习”都是在与各单元相关的主题上,进行表达能力、语法和词汇方面的拓展。“重要表达”练习是以“阅读”中的课文为中心:数量在12个左右,并配有例句和练习各三条。“语法·词汇练习”是将与学习内容相关的问题选取10个左右,并针对它各设置5至10个练习问题。在这里尽可能增加形式的变化,并在使学生能牢固所学知识上下了很大工夫。

练习根据每单元的情况,在数量上有所不等,并且,“重要表达”、“语法·词汇”因作业的设置量而所需时间也会有所不同,每个片段相应安排90分钟的课程,4个片段划分非常清晰。另外,“阅读”中的内容为原文转载,但在形式和格式上会有所变更。

阅 读 后

将“阅读”中的所学内容进行应用和拓展。各单元的话题不同,可依据实际情

况,从课堂讨论、书面总结或课外调查等多个角度有计划性地进行拓展,并希望在教师的引导下将课堂的主动权交由学生,来进行90分钟左右的总结讨论。这里的内容与“阅读”相比,省去了编辑加工,从而保持了其原有的风格。

以上为课程的大体进行模式。每课会花费多长时间,或能花费多少时间,将因教育部门的具体工作而异。一般来说2周左右是相对合理的。并且在每课或每两课后进行测验也被认为是比较适宜的。

别 册

在别册中收录了“词汇表”和“重要表达理解”。“词汇表”是将难理解词汇和与各单元内容密切相关的关键词汇罗列出来,但未作翻译。这是因为该水平学生自己可根据母语或日语来进行理解。可在空白处让他们填写各自的心得,在词汇上不能只注重数量,应定期做测试(如每4课左右)。

“重要表达讲解”。对各单元的“重要表达”所选取的事项,做简单的语法说明,用于指导时的参考。

● **読む前に** (60分钟) ……采用与“阅读”相关的素材作为热身运动。为进入正文作铺垫。

● **読んでみよう** (90分钟 × 4 片断)

……大致阅读正文并理解内容。

■ 内容を確認しよう ……先浏览这里的问题，将有助理解。

■ 意見を述べよう ……在详细讲解结束后再进行该练习也可以。

……详细讲解

……図表表現……

……文法・語彙・表現……

● **読んだあとで** (90分钟) ……解说、报告、室外活动等拓展性学习。

目次

この本をお使いになる方へ…… iv

致读者 …… viii

ユニット 1 ひと味違う自己紹介…… 1

ユニット 2 間取りの本当の意味…… 21

ユニット 3 「買う」楽しみ…… 41

ユニット 4 不思議な習慣…… 61

ユニット 5 地球を守る…… 81

ユニット 6 心と体のバランス…… 99

ユニット 7 今どきの大学生…… 117

ユニット 8 日本の会社に入るまで…… 135

ユニット 9 日本の子供たち…… 153

ユニット 10 女と男…… 169

文法・語彙練習 解答…… 184

重要表現さくいん…… 189

単語さくいん…… 192

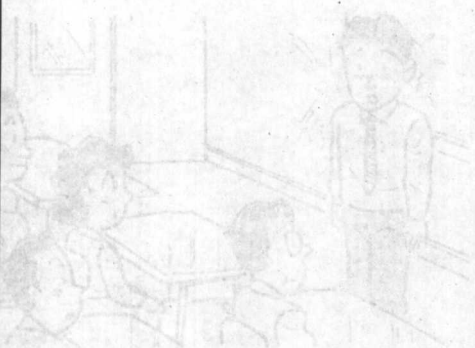
単語リスト…… 214

重要表現解説…… 241

あとがき…… 277



ひと味違う自己紹介





読む前に

1. 自己紹介をするとき、どんなことに気をつけていますか。次のことを参考にしてクラスで話し合しましょう。(してはいけないことも考えましょう。)

- みんなに聞こえるように大きな声で話す
- 自分の性格について話す
- 自分の趣味について話す
- 長く話す
- できるだけジェスチャーを使う
- ニックネームまたは名前の呼び方を教える
- ユーモアのある自己紹介をする
- 服装に気をつける

2. 自己紹介で言った方がいいことは何ですか。クラスで話し合しましょう。(言わない方がいいことも考えましょう。)

- 大学名、職業(肩書き)
- 年齢
- 既婚/未婚、恋人の有無
- 収入
- どこに住んでいるか
- 身長、体重など
- 家族の職業



3. あなたが自己紹介で聞きたいことは何ですか。また、初めて会った人に聞きたくても聞けないことは何ですか。



読んでみよう



ひと味違う自己紹介の仕方

ここに述べる自己紹介とは、何かの会合や集会で、参会者に自分を知ってもらうためのものです。ですから、従来のような通りいっぺんの紋切り型では、自分を印象づけることはできません。⁽¹⁾ なんとかふうをする必要があります。気のきいたユーモアやウイットを使うこともよいでしょうし、自分らしい特徴を出すことも必要でしょう。そういったくふうの仕方を、皆さんとご一緒に考えてみたいと思います。⁵

印象づけるあの手この手

姓を「はっきり」言う

なんといっても、自分を名乗る場合、はっきりと明確に、落ち着いた発音ができなくては致命的です。なぜなら、相手に聞こえなくては話にならないからです。特に、発音が似ている場合はよほど注意してください。たとえば、¹⁰

「岸田」と「石田」 「大田」と「大竹」

「池谷」と「池田」 「池田」と「井桁」^{いげた}

といった名前は、よほどははっきり発音しないと、相手に間違って受けとられますから注意が肝要です。⁽⁴⁾そして「自分の名前ほど、立派な名前は、他にないのだ」というくらいの気持ちと誇りをもって、遠慮なく全員に聞こえるように、“はっきり”¹⁵言っていただきたいものです。

姓名に意味をもたせる

姓名の文字そのものに、あるいは発音に意味をもたせる方法です。

(例)「私は後田と申します。現在中学校の教員ですが、⁽⁵⁾私の中学生時代にこんな思い出がありました。一年生に入学した時には、席順を背の高さで決めたわけですが、クラスでもいちばん大きかった私は、いちばん後ろの席になったのです。入学当初というものは、先生も生徒も名前を覚えるのが大変なのですが、私の場合、先生が出席をとる際『うしろだ』と呼ぶと、いちばん後ろで『ハイ』と返事をするものですから『後田はどこだ』『うしろだ』⁽⁶⁾などとクラスメートにひやかされたものですが、誰よりも先に、名前を印象づけられたことには違いありません。毎年新入生が入ってきますとこの話をするのですが、興味深く聞いてくれると、かえってテレてしまいます」(略)²⁵



ニックネームやエピソードを使う

- たとえば丸谷さんという、ぽちゃぽちゃとした顔の丸い若い娘さんがおりました。
30 ^{まるたに}そして、初めての日に、次のような自己紹介をしました。
- (例)「私“丸谷”です。私は小さい時から丸谷さんと呼ばれたことはありませんでした。いつも“丸ちゃん！丸ちゃん！”と、ニックネームで呼ばれておりました。名前も“丸谷”だし顔もこのように丸いからしかたありませんけど、その丸ちゃんこと、“丸谷”でございます。どうぞよろしく……」
- 35 こういうふうになんとも気取らないで、すなおに自己紹介をしたいものです。(略)

名前を職業・趣味に関連づける

- 「現在花園町で二十年来花屋をやっている“花沢”と申します」などと、職業に關連づけるやり方です。⁽⁸⁾
- また、植木を趣味にしている“植木”とか、小鳥を飼うのが飯より好きな“鳥飼”
40 とか、競馬の好きな“馬場”⁽⁹⁾というように、自分の姓名と、職業や趣味が一致するなら、それに関連づけて話すと効果的です。(略)⁽⁸⁾

- いかがでしょうか？「自己紹介なんて簡単さ……」と、言っておられた方もあると思いますが、「私は丸紅商事の伊藤です……」というような無味乾燥で、しかもすぐ忘れられてしまうような自己紹介でしたら、べつだん、むずかしくもないでしょうし、心配する必要もありません。
- 45

しかし、少しでも自分という存在を相手に印象づけて、いつまでも記憶してもらい「あの人の自己紹介はとてもすばらしかった」と言われるには、工夫しなければいけないということです。

- 以上のたとえ話を参考にして、自分の姓名にはどれがいちばん適当かを考えて、あ
50 なた独自の自己紹介をしてみてください。

(高橋書店刊「心と人を動かす話し方」江川ひろし監修)

■ 内容を確認しよう

(1)「従来のような通りいっぺんの紋切り型」(1.2)の自己紹介とはどんな自己紹介だと思いますか。

(2)自分を名乗る場合、どうして「はっきりと明確に、落ち着いた発音」(1.8)で言わなければなりませんか。

(3)本文を読んで、次の表に書きなさい。

名 前	工夫している点
後田さん	
丸谷さん	
花沢さん	

(4)筆者はいい自己紹介とはどんな自己紹介だと言っていますか。

■ 意見を述べよう

あなたの国ではどのように自己紹介をしますか。また、自分の名前を印象づけるためにどんな方法を使ったらいいと思いますか。あなたの意見を述べなさい。